

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。
『食』と『ふるさと』新生運動ニュース

平成29年8月号(第150号) 発行 8月31日

目次

- ・【特集】いわき梨輸出……………p.1
- ・【重点施策】鳥獣被害対策……………p.3
- ・「全国植樹祭」「全国林業後継者大会」開催日決定！p.4
- ・いわき地方GAP推進協議会設置……………p.4
- ・東京築地で「福島県漁業の今と試食会」開催……………p.4
- ・福島県漁業士会総会開催……………p.5
- ・建設工事安全推進協議会通常総会等開催……………p.5
- ・「おいしい ふくしま いただきます！」
キャンペーン開催……………p.5
- ・いわきの園芸振興プロジェクト！……………p.6
- ・いわきの里鬼ヶ城親子で食体験！……………p.6
〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.7
- ・野生きのこ等の出荷・摂取制限について……………p.7
- ・イベント情報……………p.8
- ・GAPコーナー……………p.9
- ・6次化商品紹介……………p.9
- ・いわき管内の県農林水産部関係機関業務紹介……………p.10

【特集】いわき梨輸出

サンシャインいわき梨、いよいよベトナムへ！

8月17日(木)、ついにいわき梨がベトナムに向けて旅立ちました。25日(金)には、ベトナムのイオンにおいて内堀知事によるトップセールスが行われました。

1 いざ出陣！召しませ、いわき梨！

8月17日(木)の「ベトナム向け輸出梨出発式」が開催され、JA福島さくら結城組合長を始め、市、県等関係者が、ベトナムへのいわき梨の初輸出第1便の「幸水」400kgの出発を見送りました。

また、出発式同日には、JA福島さくら、梨部会が内堀知事を表敬訪問し、梨の初輸出を報告しました。

輸出プロジェクトは、今年の1月、日本からベトナムへの梨の輸出が解禁したことをきっかけに始まりまし

た。梨部会、JA福島さくら、JA全農福島、いわき市、農林事務所がタッグを組み、ベトナムの市場調査、輸出のための園地・施設の登録、輸出なしの規格の適合など、様々な課題をクリアしてきました。今後、いわき梨は、「幸水」、「新高」の船便で順次輸出が続きます。輸出を契機にサンシャインいわき梨の新たな展開が期待されます。



(出発式のテープカットの様子)



(内堀知事への表敬訪問)

左から 大和田いわき地区本部長、赤塚専務
右から 新妻営農販売課長、草野梨部会長

幸水なしについて

今回出荷されたいわきの特産品「幸水なし」は、甘みが強く酸味が少ない赤なしを代表する品種です。最盛期が8月下旬のため、同じくいわき梨で9月が最盛期の「豊水」、「新高」より早く出荷され、水分が多く、みずみずしくて柔らかな食感が特長です。

2. 内堀知事によるトップセールス

8月25日（金）、ベトナムのイオン タンフーセラドン店において、内堀知事が、JA全農福島 猪俣本部長、JA福島さくら橋本常務、大和田地区本部長らとともに、初輸出されたいわき市産梨「幸水」のトップセールスを実施しました。

販売コーナーの店頭で、試食を提供しながら、家族連れや主婦層の来店者にいわき市産梨のおいしさをアピールしました。来店者からは、「甘くて、おいしい」「みずみずしい」など、評価する声も頂き、その場で買い求める方も多く見られました。



知事のトップセールスを皮切りに、イオンリテール(株)によって、8月下旬から11月中旬にかけてベトナムの「イオン」「ミニストップ」等約60店舗でいわき梨が順次販売される予定です。いわき梨（幸水）の販売価格は、100gあたり29,800ドン（8月14日現在で1,000ドン=4.8円相当）で、日本円で約143円での販売となります（個数換算で、1個あたり約500円）。

3. いわき梨について

いわき地区は、日本梨の栽培が明治の初め頃に導入された、県内でも歴史ある産地のひとつです。県内で最も早い時期に出荷される産地であり、「サンシャインいわき梨」のブランドで市場へ安定供給を行っています。

生産の中心となっているJA福島さくら梨部会（76名）は、全員がエコファーマーの認定を取得し、統一した栽培基準で、安全性と品質確保に努めています。特に、JAの梨選果施設（いわき市小川町）は、部会自らが共同で運営し、糖度・内部障害を判別できる光センサーを用いた選果作業を行っています。



糖度等を厳格な規格のもとで出荷することによって、市場評価も高くなり、また、各生産者の選果データをまとめ分析することによって、栽培技術向上にも活用されています。

震災後は、緊急時モニタリング検査結果チラシを箱に入れ、安全性をPRするとともに、部会役員が地元小売店で直接消費者との交流を図り、安全安心な梨づくりの取組みを伝える活動を継続しています。（農業振興普及部）

地元の皆さんにも、いわきの梨を食べていただきたい！！

第2回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

サンシャインいわき梨の試食提供、いわき産農産物のプレゼントを行います！

- 日 時：平成29年9月2日（土）10：00～（なくなり次第終了）
- 場 所：マルト中岡店（いわき市中岡町6丁目1-8）
- 主 催：福島県いわき農林事務所 企画部



消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただき、風評払拭・消費拡大を実現するため、いわき農林事務所では、消費拡大キャンペーンとして「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを毎年3回実施しています（第1回キャンペーン：p.5参照）。

重点施策

鳥獣被害から集落の農作物を守りましょう！

いわき市内では、中山間地を中心に、沿岸部の水田まで、イノシシによる畦畔掘削や水稻の食害が発生し、この5年間で被害面積は17～35ha、被害金額は260～635万円の間で推移しています。一方、捕獲頭数は、昨年度で3,479頭となり増加傾向にあります。

当所では「鳥獣被害防止対策モデル集落」を設置し、電気柵の効率的な設置方法や、集落点検作業、環境整備の鳥獣対策活動、捕獲活動を進め、鳥獣の農作物被害の防止を実践しています(①～③のとおり)。この活動を基本として、市内一円に農家自らが目標をもって被害防止活動を行う集落を増やしたいと考えています。

① 【集落環境の整備】

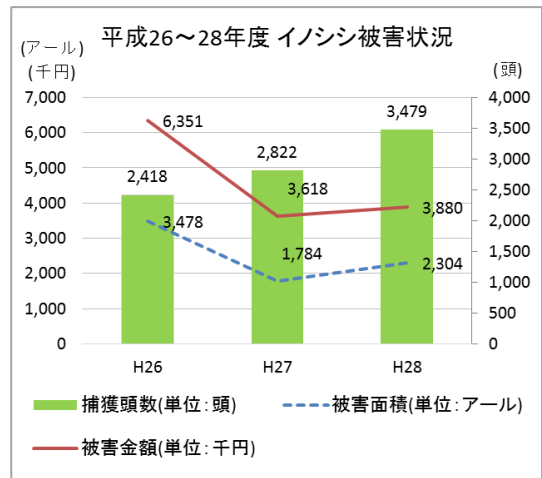
集落の弱点を見つける・エサを取り除く。収穫しない果実(熟柿)、野菜の残さ、生活圏からの生ゴミなどは格好のエサとなり、集落にイノシシを呼び込んでしまいます。

② 【正しい電気柵の設置】

二重三重のチェックを！見た目は低く感じられますが、イノシシ対策の電線の高さは20cmと40cmです。電線を固定するガイシを外に向け、イノシシが認識しやすい「支柱」を探った時に鼻が必ず接触することが重要です。また、周囲から視認しやすい場所に「感電注意」の掲示をし、感電事故を未然に防ぎましょう。

③ 【捕獲】

「捕獲」は鳥獣被害防止の最終手段であり、「捕獲のみによる鳥獣被害対策の成功例はない」と言われています。上記のポイントを実施してから行いましょう。エサは少量ずつ、撒き餌は時間をかけて徐々にワナに導き入れる。入口の段差をなくすなど、ワナに入りやすい工夫が必要です。また箱ワナなどの捕獲作業には「狩猟免許」が必要になりますので、講習受講や免許取得手続きをしてください。



いわき市・農業共済組合調査



(集落点検を実施)



(農地を荒らしているイノシシ親子)



(電気柵の実証)

(農業振興普及部)

「第69回全国植樹祭」・「第47回全国林業後継者大会」開催日 決定！

南相馬市で行われる全国植樹祭の開催日が平成30年6月10日（日）に決定し、8月9日（水）に当所職員が、いわき駅前広場で植樹祭のPRを行いました。

「全国植樹祭」は、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、県内外から多くの方々が参加して式典や記念植樹を行います。また、復興に向け力強く歩む福島県の姿などを全国に発信いたします。

関連事業も各地で開催され、特にいわき市内では、植樹祭前日の6月9日（土）に「第47回全国林業後継者大会」を開催し、全国の林業者が一堂に会し、森林づくりの先人の考えや担い手としての取組みについて意見交換します。（森林林業部）



（開催日決定を笑顔でPR）

→県いわき合同庁舎に
垂幕も設置しました！

いわき地方GAP推進協議会設置〔8月31日(木)〕

いわき合同庁舎において、(株)平果、(株)マルト商事、パルシステム福島、JA福島さくら、いわき市、いわき農林事務所が参集し、いわき地方GAP推進協議会を設置しました。当日は、設置要領の承認後、第三者認証GAPの制度や現状、福島県GAP推進基本方針を確認するとともに、平成29年度は、①JA生産部会の団体認証の推進、②生産者、消費者向けの広報活動の強化、③研修会、相談会の開催等の事業計画が承認され、今後、GAP県内一の産地形成を目指して活動していくことで合意しました。（農業振興普及部）



（協議会構成員）

東京築地で「福島県漁業の今と試食会」開催〔7月22日(土)〕

築地魚河岸3階のイベントスペースにて、県漁業協同組合連合会が「のぞいて、たべて、福島県漁業を知ろう！！～福島県漁業の今と試食会～」を開催し、県産水産物への理解の促進と風評払拭を目的に、試験操業のパネル展示と県産水産物の試食会を行いました。

試食は、前日に水揚げしたカツオの「さし身」・「揚げ浸し」と、「いわき市の魚」であるメヒカリの「唐揚げ」の3品で、開会8時の前から数百名が並び、新鮮なカツオと目新しい唐揚げに、市場関係者も驚いていました。午後には海外観光客も増え、英語の対応に苦労したものの、15時に3千食が完食となりました。

アンケート結果では、約95%の方が県産水産物を購入すると回答し、イベントを通じた県産品PR活動に関係者は手応えを感じていました。（水産事務所）



（試食のメヒカリ、カツオさし身、揚げ浸し）



第69回

入王国植樹祭

ふくしま
2018



育てよう
希望の森を
いのちの森を

平成30年6月10日開催!!

福島県漁業士会総会開催

〔7月28日(金)〕

県いわき合同庁舎で平成29年度総会が開催され、活動計画及び収支予算案等が全会一致で承認されました。「漁業士」は、漁業後継者の育成確保と活力ある漁村社会の形成のため、県知事が、優れた漁業後継者を青年漁業士、漁村の指導的な優れた漁業経営者を指導漁業士として認定しており、今年度は各漁業士2名で計4名が認定されました。また、会長職の選任もあり、今まで副会長であった石川康夫氏が会長に選出されました。



(総会の様子)

総会後には、日本MSC事務局 高宮城氏を講師に、「水産エコラベル認証」に関する学習会が開催されました。この認証は、水産資源の持続的利用のため、優れた資源管理を行う漁業を認証する制度であり、県漁業協同組合連合会は今年度の取得を目指しています。東京オリンピックへの県産水産物の提供を目的とした取組みのため、参加者はエコラベル認証の概要とそのメリットについて、注意深く聞いていました。

(水産事務所)

建設工事安全推進協議会通常総会等開催

〔7月25日(火)〕

建設工事安全推進協議会通常総会及びいわき森林土木協会通常総会が、いわき建設会館で行われました。

建設工事安全推進協議会は、建設会社等31者と当事務所で構成し、労働災害未然防止と労働者の安全衛生と作業環境の向上を図ることを目的に設置されています。総会では、今年度の事業計画策定等を行い、後にはいわき労働基準監督署 後藤安全衛生課長から労働災害発生状況の推移、熱中症予防の留意点等について講話をいただきました。



(受講状況)

また、いわき森林土木協会通常総会では、優良森林土木工事の表彰が行われ、予防治山2801工事「新街地区」を施工した山一緑化土木(株)と現場代理人が受賞しました。いわき森林土木協会の会員数は、平成29年7月現在で30社となっています。

(総務部・森林林業部)

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン開催〔7月23日(日)〕

ヨークベニマル新谷川瀬店にて、今年度1回目のキャンペーンを開催し、消費者へ県産農林水産物の安全性や美味しさをPRしました。ご飯、豚肉、野菜など県産物を使った調理実演・試食提供を実施し、アンケート協力者にはワンダーファームのミニトマトセット又は大和田自然農園のブルーベリーをプレゼントしました。



(調理実演の様子)

来場者からは、「県産食材の美味しさを味わえて、とても良かった」「美味しく新鮮なので、今後も購入したい」等の声が聞かれ、県産農林水産物の購入意欲等に関するアンケート調査では、「購入してもよい・積極的に購入したい」が全体の約98%を占めました。

(企画部)

いわきの園芸振興プロジェクト！

〔7月19日(水)〕

いわき合同庁舎において「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議（いわき市、市農業委員会、JA全農福島、JA福島さくら、農林事務所）」を開催し、重点品目のいちご、ねぎ、日本なし、りんどうについて、産地の担い手の確保、新たな生産技術導入の方策を検討しました。

今後、8月23日（水）に川前町でりんどうの新規栽培希望者説明会を、9月9日（土）は、1日でいわき市内のいちご、ねぎ、日本なしの3つの農家をバスで巡る産地見学ツアーを実施し、新たな担い手を確保するとともに、引き続き関係機関と連携しながら重点品目を振興してまいります。



（いわき地方推進会議の様子）

（農業振興普及部）

1日で3つの産地を巡るバスツアー！

平成29年
9月9日（土）
13:00～17:00
集合：いわき合同庁舎駐車場
対象：就農に興味をお持ちの方

いわき市内の「いちご」「ねぎ」「なし」の農家をバスで巡るツアーを実施します。作物の栽培の様子を見ることができ、農家の方と直接話ができる場としますので、是非ご参加ください（無料）。お申し込みは、下記の電話番号またはEメールアドレスからお願いします（申込期限 9月4日、先着20名）。

主催：新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議
事務局：福島県いわき農林事務所 TEL: 0246-24-6160, Email: shinkouhukyu.af07@pref.fukushima.lg.jp

いわきの里鬼ヶ城 親子で食体験！〔7月23日(土)・8月6日(日)〕

いわきの里鬼ヶ城（いわき市川前町上桶売小久田 73-3）で開催された「親子で収穫・食体験！」で、野菜の収穫体験や「ふくしま食育実践サポーター」による「食の安全講座」が行われました。

各回とも小学生を中心とした親子が約30名参加し、ナスやピーマン、じゃがいも等の収穫、収穫した野菜を使ったピザ作り体験を行いました。午後からの「ふくしま食育実践サポーター」の荻野智代氏による安全講座では、野菜の豆知識や、放射性物質の対応や農薬の使用に関する話がありました。その後、併設の浴場施設で汗を流し、バスで



（食の安全講座の様子）

いわき市役所まで送迎された参加者は、親子ともに大満足の様子でした。（企画部）

「ふくしま食育実践サポーター」を派遣します

県では、学校や地域団体の要請に応じて、食生活、調理、栄養、食文化、食の安全・安心など、「食」に関するさまざまな分野において、地域住民や子どもたちへの食育活動を支援する「ふくしま食育実践サポーター」の派遣を行っております。サポーター派遣ご希望の際は、下記 Web ページより活動申込書をダウンロード・ご記入の上、いわき農林事務所企画部までお申し込みください。

活動申込書ダウンロード <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/supporterseido.html>

お問い合わせ いわき農林事務所 企画部

◆TEL：0246-24-6197

◆FAX：0246-24-6196

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年7月分）

□ 農林畜産物の検査結果

検査した15品目23検体すべてにおいて、放射性セシウムは検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。また、出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

小麦 1、カボチャ 1、ピーマン 1、ナス 1、 トウモロコシ 1、ツルムラサキ 1、サヤインゲン(施設) 1、ブルーベリー 1、バレイショ(ジャガイモ) 1、菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 1、エリンギ(施設) 1、菌床うすひらたけ(施設) 1、牛肉 2、原乳 5

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（7月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	野生きのこ、原木なめこ（露地）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

□ 海産魚介類の検査結果

612 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成29年7月には97.2%となっています。7月31日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示（7月末現在 10種類）

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ピノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

野生きのこ等の出荷・摂取制限について

野生きのこ等の発生・採取時期を迎えますが、生産者や直売所担当者等の皆様におかれましては、次の点に留意して下さるようお願いいたします。

1 出荷制限品目について

現在、いわき市産のきのこのうち、出荷等が制限されている品目は（表）のとおりです。

これらの品目は、地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限は今シーズンも継続しています。

このため、出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用しないでください。自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売等は行わないでください。

2 摂取制限品目について

いわき市産の野生きのこについては、摂取制限措置も取られていることから、食用とすることも控えて下さるようお願いいたします。

3 栽培きのこについて

「原木なめこ（露地）」以外の栽培きのこは、栽培前に生産資材（きのこ原木、ほだ木・菌床等）の安全性の確認を県の検査機関において実施しています。国が定める当面の指標値（きのこ原木・ほだ木50Bq/kg）以下で安全性が確認できた生産資材のみ、販売目的のきのこ栽培に使用してください。

また、発生したきのこは、出荷・販売前に県によるモニタリング検査を受ける必要がありますので、きのこ栽培の開始・再開を検討されている場合は、森林林業部までお問い合わせください。（森林林業部）

（表）いわき市産きのこの出荷制限等品目

出荷、摂取	品 目
出荷制限	野生きのこ、原木なめこ（露地）
摂取制限	野生きのこ

※市町村毎に出荷制限品目等が定められていますので、県のHP「ふくしま新発売。」（www.new-fukushima.jp）または森林林業部で確認してください。

イベント情報

「おいしい ふくしま、いただきます！フェスティバル」

- 日 時：平成29年9月 9日（土）10：00～17：00 ■場 所：ビッグパレットふくしま
 10日（日）10：00～16：00
 ■主 催：ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部・福島県

福島県最大級の食の祭典です！県内のおいしいものが一堂に集結し、美酒体験やお楽しみ抽選会、ステージでは各種ショーやお笑いライブも行われます。ぜひ、お越しください！

「ふくしま おさかなフェスティバル in いわき」

- 日 時：平成29年11月12日（日）10：00～15：00 ■場 所：小名浜魚市場
 ■主 催：福島県

ふくしまの漁業の現状を学び、地域を盛り上げるイベントです！サンマつかみ取り、漁協女性部の食べ物コーナー、ホシガレイ稚魚の放流体験、県調査船「いわき丸」乗船体験など多彩な企画をご用意していますので、ぜひお越しください。

トピック1

愛谷堰土地改良区・愛谷江筋援護会が インフラメンテナンスで優秀賞受賞！

「愛谷堰土地改良区（水土里ネット愛谷堰）」が、各省庁が表彰する「第1回インフラメンテナンス大賞」の農業・農村分野において、優秀賞を受賞しました。愛谷堰土地改良区は、工事コストの縮減、農村環境の美化のため、地域住民に加えて企業、小学校、老人会等の組織が一体となって工事を行うことによって、地域コミュニティの活性化にも寄与されています。



トピック2

いわき農林事務所で発注した工事が、優良工事として表彰されます。

8月17日に県が発表した「平成29年福島県優良建設工事」のなかで、当所発注の3工事が選ばれました。表彰式は、9月13日（水）に行われる予定です。

受 賞 団 体

☆藤田建設工業 株式会社☆
 復興基盤総合整備事業
 錦・関田地区

区画整理工 A=14.1ha
 事業費 480,036,240円



☆株式会社 大川原建設☆
 森林居住環境整備事業（県
 営・道交）永井川前線

道路工 L=369.5m
 事業費 84,128,760円



☆矢田工業 株式会社☆
 広域営農団地農道整備事業
 いわき地区

鋼橋製作架設工 N=1橋
 事業費 289,300,680円



ふくしま県 GAP (略称 FGAP) が創設されました！

1 7月11日(火)、GAP取得拡大のため、県独自のGAP認証制度「ふくしま県GAP(略称FGAP)」が創設されました。FGAPは、農林水産省のガイドラインに準拠しており、東京オリンピック、パラリンピックへの食料調達基準も満たしたGAPです。また他の第三者認証GAP(GLOBAL G.A.P、JGAP)との相違点として、放射性物質対策を含んだ基準を持ちます。

取得を希望される方は、県の補助事業「第三者認証GAP取得等促進事業」をご活用ください。

表1 FGAPと他の第三者認証GAPとの違い

	FGAP	GLOBAL G.A.P、JGAP等
審査手数料	無料	有料(通常10万円程度) ※補助制度があります。
管理記録に必要な期間	2ヵ月以上	3ヵ月以上

2 ふくしま県GAP説明会を開催します。

- 日 時 9月11日(月) 13:30~
- 場 所 勿来市民会館(大会議室)
- 注 意 浜通りで初めてのFGAP説明会になりますので、関心をお持ちの方は、ご連絡の上、ぜひご出席ください。

説明会へのお申込み及びFGAPに関するご質問等は、いわき農林事務所 農業振興普及部(TEL: 0246-24-6161)までお問い合わせください。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！



代表取締役 松崎さん

今回は、健康に良い食材のいわき産オリーブを使った商品2つをご紹介します。「オリーブ麺」は、パスタ(平打ち)と細麺の2種類あり、様々な食べ方が楽しめます。もちもちの食感とオリーブの爽やかな風味が特長で、オリーブオイルと塩だけの味付けでも美味しくいただけます。「オリーブ茶」は、くせがなく飲みやすく、やさしい香りが広がります。これらの商品は、道の駅よつくら港、ワンダーファーム、いわきららみゅう、ネット通販でも購入いただけます。

オリーブパスタ(平打ち)/オリーブ麺(細)

内容量:麺200g 価格:361円(税抜)
いわき産オリーブの葉を練り込んだ自然派麺です。2016年「ふくしまおいしい大賞」優秀賞受賞。



※写真は平打ち



オリーブ茶

内容量:2g×10袋 価格:593円(税抜)
いわき産オリーブの葉をやさしい味のお茶にしました。



お問い合わせ
(9/1~)

いわきオリーブ いわき食彩館株式会社

●いわき市平権現塚31-4 ●TEL.0246-23-3447
<http://www.iwaki-shokusaikan.co.jp/>

※いわき食彩館(株)スカイストアは8月15日で閉鎖し、9月1日より「いわきオリーブ」として上記のとおり移転・営業開始します。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧ください。

いわき管内の 県農林水産部関係機関 業務紹介

本コーナーでは、いわき農林事務所各部の業務をご紹介してまいりましたが、今回は、いわき管内の関係機関である家畜保健衛生所をご紹介します。

家畜保健衛生所（家保）は、畜産農家が家畜を健康に飼育し、安全・安心な畜産物を供給するため、家畜の疾病予防やまん延防止の面からサポートしています。

防疫課では、鳥インフルエンザをはじめとする家畜伝染病予防法に基づいた疾病の検査や調査、放牧場における牛の衛生検査、疾病の原因究明のための検査（病性鑑定）や依頼を受けた種々の検査を実施しています。

衛生指導課では、畜産農家の巡回や広報などにより疾病情報の提供や飼育管理に関する助言や指導を行い、家畜衛生の向上をサポートしています。また、動物病院の立入検査、動物用医薬品の販売や使用に関する監視、指導を実施しています。

現在、今年度内にいわき、県南及び県中の3家保を統合する計画が進められており、新施設が玉川村内に建設中です。鳥インフルエンザ、口蹄疫などの重大な疾病の全県的な危機管理やより高度な家畜疾病診断を行う拠点になります。

家畜保健衛生所の主な業務

<家畜（牛、馬、豚、鶏、蜜蜂など）を対象>

- ・家畜伝染病の発生予防、まん延防止（検査・指導）
- ・家畜疾病の原因究明（病性鑑定：疾病の原因は何かを調べ、診断、対処）
- ・家畜衛生の向上（国が定めた飼養衛生管理基準に即した飼養管理の指導）
- ・獣医事・動物薬事（動物病院、動物薬販売業者等に関する監視・指導）
- ・畜産環境保全（家畜の排せつ物の管理指導等）



（放牧牛の衛生検査の様子）



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース